

史料 会瀬浜魚荷が抜荷を疑われる

― 荷口銭・出判・出判改所 ―

ここに掲載した史料は以下の文献からとった。

- (一) 大内地山編『茨城県水産誌 第一編』
 - (二) 茨城大学図書館編『水戸下市御用留』
 - (三) 茨城県史編集会編『茨城県史料 近世社会経済編Ⅳ』
 - (四) 茨城県立歴史館史料部編『茨城県立歴史館史料叢書』
- 8 松蘿館文庫所収寛永文書』

目次

〈史料名は本制作者において付した〉

- | | | | | |
|---|----------|----------------------|----|----|
| 1 | 天保二年八月 | 水戸領多賀郡会瀬浜魚荷物抜荷 | 一件 | 2 |
| 2 | 安永二年二月 | 那珂郡湊村諸魚荷口銭書上 | | 3 |
| 3 | 安永七年七月 | 那珂郡湊村肴廿分一役及び諸荷口銭書上 | | 3 |
| 4 | 天保二年七月 | 水戸肴町問屋魚荷物減少により困窮に付願書 | | 4 |
| 5 | 宝暦十一年九月 | 水戸領魚荷物領外指出順路に付達 | | 7 |
| 6 | 宝暦十三年十二月 | 水戸領魚荷物領外指出順路に付達 | | 7 |
| 7 | 文政五年十二月 | 水戸領魚抜荷取締に付判改所設置達 | | 7 |
| 8 | 文政八年 | 多賀郡松岡領大津浜魚荷口銭を | | |
| 9 | 寛永四年八月 | 水戸領産諸魚売買に付達 | | 13 |
| 1 | 宝永六年三月 | 魚荷物荷口銭徴収に付着方達 | | 13 |
| 2 | 文化六年三月 | 那珂郡湊村魚荷城下問屋相懸けに付馬持一札 | | 14 |
| 3 | 文化十二年十月 | 荷作りサンマに荷口銭 | | 14 |
| 4 | 文政四年七月 | 水戸領産生荷の抜荷改め方に付下問 | | 15 |
| 5 | 文政四年十月 | 水戸領産生荷の抜荷改め方に付上申書 | | 15 |
| 6 | 文政六年三月 | 磯浜・大貫境出判引替所設置達 | | 18 |
| 7 | 文政六年三月 | 水戸藩魚荷物出判取扱法覚 | | 18 |
| 8 | 文政六年三月 | 水戸藩魚荷口改に付達 | | 20 |
| 9 | 文政六年七月 | 魚荷出判引替所増設達 | | 21 |

1 天保二年（一八三一）八月 水戸領多賀郡会瀬浜魚荷物抜荷一件 『水戸下市御用留』（六）p.52

一 本五丁目石田与衛門江 御用之儀有之候条、御評定所御役所江唯今罷出候様御達、其節各ニも出座可有之候、以上

八月十日 佐藤五衛門殿 小室左吉

右呼出候処、与衛門病氣ニ付名代ニ岩見屋善衛門相頼指出候ニ付、其旨大胡氏江相伺候所、同役ヲ指出可然と御座候付、其旨申遣候所、清左衛門も他行ニ付代役市郎衛門を指出候付、右申立市郎衛門ニ而相濟申候

本五丁目問屋

石田与衛門

一 去ル子年、会瀬浜魚荷物御町江不相掛、勝倉^{*}方上石崎^{*}通ニ而罷越候、馬士共之内、沢村^{*}長次郎と申者ヲ渋井村^{*}附子之者共抜荷と相心得、古宿村^{*}ニ而見咎、御町問屋江召連来り候ニ付、前振を以、荷物為下、荷鞍取上ケ候旨、其節申出之趣有之候処、生荷之事荷も候得ハ、荷鞍取上ケ及遲滞候上ハ、此方馬ニ而付送り可然処、致来とハ申ながら、不行届取扱ニ有之、猶又荷物之内四筒半紛失ニ相成候所、問屋江請取候品ニ者無之由ニ候得共、問屋前江下シ置候荷物致紛失候段、問屋役ニ者等閑之取扱、旁不調法之至ニ付呵押込申付者也

右延紙横折式枚江御認、為御読聞、其後我々江御渡相成候事

（天保二年八月）

下御町問屋江

一 松岡扱会瀬浜等方江戸出之魚物繼立之儀、長岡・小幡^{*}両駅引張ニ相成候一件、両村古法之意味申立候由ニ而事柄不相分居候由之所、長々引張居候而不相濟事ニ附、夫々利解申合、以来熟和致、無隔意両駅申合、荷主勝手を以繼立候筈、和談為相整、右両駅江掛り候荷ハ本道致通行候様浜々江茂申達候由、御郡方方申来候間此段申達候事

右単半切^{*}へ御認候御書御渡ニ相成候ニ付、同役江相廻し問屋へ御達者両道藤兵衛へ為持遣ス、留相成候ハ、早速返候様申達候

（註）

* 去ル子年…文政十一年（一八二八）。

* 会瀬浜…多賀郡会瀬村（日立市）

* 勝倉…那珂郡勝倉村（ひたちなか市）。那珂川下流左岸にあり、対岸の吉沼村との間に船渡しがある。

* 上石崎…茨城郡上石崎村（東茨城郡茨城町）。涸沼西岸にある。

* 沢村…那珂郡。岩城海道の宿駅がある。

* 渋井村…那珂川下流右岸、吉沼村の南西にある。現水戸市。

* 古宿村…現水戸市元吉田町。渋井村の南西にある。吉田村から分離。

* 長岡…長岡村。現東茨城郡茨城町。涸沼前川の左岸。水戸海道の駅所。

* 小幡…小幡村。現東茨城郡茨城町。巴川の左岸。水戸海道が村内を通る。長岡村の南の方角にある。

* 単半切…ねずみはんせつ。ねずみ色の全紙を縦に二つに切ったもの。

2 安永二年（一七七三）二月 那珂郡湊村諸魚荷口錢書上 『茨城県水産誌 第一編』 p.57

一 上看 鯛 鱸 鯉 鮒 きす 魴 鰯 王餘魚 そ
ひ あかふ 鰈 石首魚 あいな目 □
鱒 鮒 鮑 生鱈 いなだ 其外右ニ順申
候着類品々

此荷口錢 三拾六貫目ニ付 總三百文

一 下着 生鰹 塩かつほ 鰹節 鯖 鰯 さかえ
び れんて 鮫 其外皮付之類着品々

此荷口錢 同 斷 總百五拾文

但シ右之外蛸ハ上下ト相改申候、尤他領ヨリ入津
仕候生塩着荷口錢取不申候

右諸着荷口錢改取上申候次第御尋ニ付書上申候、以上

安永二年巳二月

湊村荷口役人

又 市

與惣兵衛

伊兵衛

伝五郎

御郡御役所様

3 安永七年（一七七八）七月 那珂郡湊村着廿分一役

及び諸荷口錢書上

『茨城県水産誌 第一編』 p.62

御尋ニ付乍恐口上書ヲ以奉申上候

一 海邊諸着廿分一改之儀、明曆三丙年（西）ヨリ被仰付候、

其以来今以取立候事

一 御領内諸着他領へ指出分荷口錢改取立候儀、宝曆二
丙年（西）ヨリ被仰付、其以来今以取立候事

一 鰹之魚荷口錢ノ儀ハ宝永三年（西）八月ヨリ改取立可申
旨被仰付、其以来今以取立候事

一 上看老駄ニ付 總 三百文

一 下看老駄ニ付 總 百五十文

一 上看かつき老人ニ付 百文ツ、

一 下看かつき老人ニ付 四十八文ツ、

右之通先年ヨリ荷口錢取立候所、当四拾ヶ年程以前ニモ
可有御座、馬附・かつぎ共高下有之、改御届兼可申由ニ
テ目方積ヲ以荷口錢取立候様被仰付、老駄ノ目方三拾六
貫目ニ御定、かつぎノ儀モ其後ハ貫目積リヲ以荷口錢当
時取立仕候事

一 茶・煙草・紙・木綿・くり綿・楮

右之類荷口錢先年取立候哉、又ハ中興（興カ）ニ相止候哉、村留

等相糺可申出旨被仰付候ニ付、村留等相糺シ候所、右之

類当村ニテ錢荷口錢取立候見合一向見当不申候

右御尋ニ付古キ村留等相糺シ、乍恐以書付申上候、以上

安永七年戊七月

湊村

舟庄屋 伝五郎

庄屋 與次衛門

御郡御役所様

安永七廿分一荷口錢等御糺並御答書上之事

明曆三丙年（西）

一 海邊廿分一御改十一月ヨリ取立

一 茶・煙草・紙荷口錢十一月ヨリ

一 茶老駄二付 鏝 貳拾文宛

一 たはこ老箇二付 鏝 拾文宛

一 紙老箇二付 鏝 三拾文宛

一 左之ケ条翌戌四月ヨリ

一 織物木綿老箇二付 鏝 百文ツ、白染共

一 練綿老箇二付 鏝 八拾文ツ、

一 鹿皮取楮老駄二付 鏝 三拾文ツ、

一 鹿皮楮老駄二付 鏝 拾文ツ、

但楮之儀ハ御領分ヨリ他領へ買參候分計荷、
最御領分之者買參分ハ荷口取間敷候

外ニ

一 上看老駄二付 鏝 三百文ツ、

一 上看かつぎ老人二付 鏝 百文ツ、

一 下看老駄二付 鏝 百四拾八文ツ、

一 下看かつぎ老人二付 鏝 四拾八文ツ、

右之通荷口錢等取ノ儀先年被仰候処、廿分老看荷口ハ當時取扱候儀ニ在之候得共、其外ケ条之分、其村方ニテ當時取扱候儀在之哉、又先年ハ取扱候へ共中興^(興)相止ミ候次第二候哉、村留等得卜相糺委細書付ヲ以近日申出候様ニ可被致候、以上

安永七戌七月朔日

小川弥八郎

外岡伴介

御尋ニ付乍恐口上書ヲ以奉申上候

一 海邊諸着廿分一改取立之儀、明曆三酉年ヨリ被仰

付、其以来今以取立候事

一 領内諸着他領へ指出候分、荷口錢改取立候儀、宝永

二酉年ヨリ被仰付、其以来今以取立申候事

一 鮭^(鱒)之魚荷口錢之儀ハ宝永三戌八月ヨリ改取立可申旨被仰付、其已来今取立申候事

一 上看老駄二付 鏝 三百文ツ、

一 同 かつぎ老人二付 鏝 百ツ、

一 下看老駄二付 鏝 百五拾ツ、

一 同 かつぎ老人二付 鏝 四拾八文ツ、

右之通先年ヨリ荷口錢取立申候処、当四十ヶ年程以前モ可有御座、馬附・かつぎ共ニ馬下有之改相届兼可申由ニテ貫目積ヲ以荷口錢取立候様ニ被仰付、老駄ノ目方三拾六貫目ニ御定、かつぎノ儀モ其後ハ貫目積リヲ以改仕、荷口錢當時取立申候事

〈註〉

* 明曆三年…丁酉、西曆一六五七年。

* 宝曆二年…壬申、西曆一七五二年。宝永二年は乙酉、

西曆一七〇五年。

* 宝永三年…丙戌、西曆一七〇六年。

4 天保二年(一八三一)七月 水戸着町問屋魚荷物減

少により困窮に付願書

『水戸下市御用留(六)』p.45

乍恐以書付奉願上候事

一 往古着町之儀者寛永二丑年中御開關被遊候御砌、御町割節、弥本着町着問屋御立被下置、着商売類寄被仰付、莫太之被為在 御世話、御領内浜々々漁事之着

荷物、丸々肴町問屋江指出相捌、中買之者共買請、御城下近在迄も夫々ニ商売仕候様御控被下置、尚又造酒屋・小売酒屋・仕出屋・旅籠屋・中買之者共直買之儀ハ決而不相成、御法諸向江嚴敷御定之通御達被 仰出候ニ付、其節ハ一統賑々敷商売仕候段、御国恩冥加至極難有仕合ニ奉存候、其後者乍恐御法相弛候節者時々厚ク被為在 御世話、右商人共尚又上下御町へ一同先規御法之通御達被下置候付、我々共商売取統罷在候段重々難有仕合ニ奉存候、近頃猥りニ罷成候上、浜方之者共問屋江参り不申、御家内様上下御町直増言売多ク罷成候故、出荷物追々相減、商売向年増不景氣ニ罷成、問屋共至極難渋仕罷在候処、造酒屋・小売酒屋・仕出屋・旅籠屋等問屋場江不罷出、浜方之者共方直買致、渡世仕候次第ニ而御法も相破り候儀ニ而、中買之者共之内ニハ不心得之者も在之、直買致候而折々問屋江罷出、肴買請渡世仕候成ル義ニ而肴捌方ニ指支、自然ト出荷物薄ク罷成候ニ付、我々共申合、時々御町内相廻り、直買等不仕候様心を付候得共、追々不心得之者も在之候次第ニ而先規方之御法も相弛、猥ニ罷成候而我々共渡世一向ニ不相成候而、問屋株之者共必至ト難渋仕候、去年中も上下御町江別紙之通御触流被成下置難有仕合奉存候、当年ハ別而猥ニ罷成、当時纏之節ニ御坐候処肴町問屋江ハ一切荷物参り不申、浜方之者共直増言売致候而、酒屋・仕出屋・旅籠屋等直買仕渡世致候者多分御坐候而、問屋無之候而も宜敷姿ニ成行、甚以不心得之義ニ御坐候、右之次第ニ而肴町問

屋、當時無商売同様ニ而誠ニ以至極難渋仕罷在候、此上一統ふせ柄トハ乍申、下御町之内ニも乍恐御見通シ被遊候通、別而肴町之義ハ相衰ひ、昔之姿更ニ無御坐候而、追々絶転仕候者共計ニ而、問屋并中店中買之者共迄絶々ニ罷成候外無御坐候而、誠ニ此上肴町ト申名而已ニ而成行可申哉と、乍恐一同難渋仕罷在候、先規方寄々御達被下置候御儀を以、右商人共、此上不心得不仕、一切直買不相成、肴町問屋江罷出、諸魚買請渡世可致旨、乍恐銘々嚴敷御達被下置候様奉願上候、尤小売酒屋・旅籠屋共之内ニ而無人ニ而問屋場江罷出兼候ものも御坐候得ハ、右之者ハ肴中買之者共方買請渡世可致、訳ケ而造酒屋・仕出屋・旅籠屋共直買等之心得違無御坐候様、支配ノ名主江屹ト御達被下置候様此段乍恐奉願上候、先ツハ肴町問屋江罷出、肴買請渡世シ候様仕度奉存候、左候得者買人多分御坐候ハ、浜方方も出荷物多く罷成候而格別肴町賑合ニ罷成候義ト乍恐奉存候、肴町問屋并中店之者共、前件之次第ニ而當時浮沈之堺ニ御坐候而無余義乍恐奉願上候

一 御町内ニ住居仕候者共、浜方并ニ鮭留場江罷越、直買仕候而御町内直増言売仕候義ハ先規方不相成御法ニ御坐候処、近頃相弛猥ニ罷成候ニ付、御町内之者浜方へ罷越、直買仕候処、野州・上州其外他国方参り候而店借・日雇取之者共多分浜方へ参り諸魚直買致、上下御町直増言売日々仕候ニ付、我々共肴中買之者共迄直ニ不相成次第ニ而必至ト難渋仕候処、浜方之者共迄直増言売多ク在之候、上御町内ニ罷在候者共迄御法を相

崩シ、直買・直増言売渡世発向致候事ニ而、肴商人共一統至極難渋仕候間、先規御定之通、訳ケ而御達被成下置候様、一同乍恐奉願上候

一 肴商売之義ハ肴町ニ限り、余町ニ而ハ決而不相成、先規方御掟ニ御座候所、近頃相弛猥リニ罷成候而居酒屋・仕出屋并ニ中買之者共之内ニ而庇下又者見世先之台所等江肴をならべ置、肴町中店同様ニ商売仕候者在之様にて、肴町問屋・中店之者共迄、甚以指支難渋仕候、酒屋・仕出やニ而、肴丸物ニ而売候義ハ不相成候所、中買同様ニ商売致候ニ付肴中買難渋仕候、中買之者共、庇下江いけたか等へ肴ヲ入置、宿元ニ而一切商売不相成候義、銘々支配〳〵江御達被下置候様乍恐奉願上候、左も無御坐候而ハ肴町中店之者年中渡世ニ不相成難渋仕候、先規方余町ニ而ハ商売不相成次第ニ御座候所猥ニ罷成候付、乍恐奉願上候

一 八丁目湊屋藤次郎義ハ中湊・平磯・磯崎・前浜等之浜方商人之宿ニ御坐候所、年中日々未明ニ右浜方方荷物持参致、右宿ニ而相休、朝飯等を給候而罷在候砌、肴庇下江ならべ肴渡世致候者共、或ハ御町内之者共朝ニ相集メ、藤次郎方ニ而売買仕候次第ニ而、問屋江参り候肴途中ニ而右躰之次第ニ御坐候而、我々共并中買一統至極難渋仕罷在候、右宿之者江此上左様等之儀無之様嚴敷被 仰付被下置候様乍恐一同奉願上候
前件之通猥リニ罷成候而、我々心を付候得共行届キ兼乍恐奉願上候、且ハ御肴方御役所様、御用御買上之節も御指支ニも可相成候哉と難渋仕罷在候、此上我々共

申合セ日々相廻り心を付候様可仕候間、偏ニ件之趣何共重々御苦難ニ罷成奉恐入候得共、肴町之者共絶々ニ罷成候義ニ而無抛乍恐奉願上候、右渡世之者共御引立被成下置、偏ニ非常之御仁恵を以諸向江御触流被成下置候様、乍恐一同奉願上候、願之通被 仰付被下置候ハ、我々共并肴町中店・中買之者共迄商売取統ニ罷成可申と一同冥加至極難有仕合ニ奉存候

本肴町肴問屋
六郎左衛門

同
利兵衛

同
東衛門

前書之通、問屋共願出御坐候ニ付取次差上申候、宜御仁恵を以願之通被 仰付被下置候様一同乍恐奉願上候、以上

卯

本肴町組頭

七月

久衛門

御町御役所様

清水町名主
弥兵衛

文政十三年寅七月十六日上下御町江御達之写シ
造酒屋・小売酒屋・仕出屋・旅籠屋其外中買人共之儀ハ日々肴問屋江罷出、肴買請商売可致御定ニ候所、造酒屋共之内ニハ浜々方参り候肴方直買致、中買共之内ニ者浜方江罷越直買致者も在之趣相聞、甚以不心得之至ニ在之候、此上右等之儀於有之ハ嚴重ニ申付候条、造酒屋等を始中買人共江屹ト可相達候、已上

七月四日 大胡氏江出ス

〈註〉

*増言…せり。

5 宝暦十一年（一七六一）九月 水戸領魚荷物領外指出順路に付達

『水戸下市御用留（八）』p.31

○磯浜・湊・大貫方江戸江為登候生肴之分、長岡村江直出シに相達候所、諸肴荷物共ニ長岡村江直出シに相濟候様、尤他所出魚荷物之内磯浜・大貫・湊・平磯之儀者西場、宍戸・笠間・烏山・太田原・宇都宮・佐野・結城・下館辺江指出候魚荷物之分者は又只今迄之通下町江相懸ケ、松岡浜々之儀者只今迄之通相濟候段御町奉行江達之事
右之通御書付八月廿九日御若老衆方御渡候事

如斯ニ候得共、松岡浜々之儀不相分候付達延置候、此段其筋伺合之上又々追而可相達候得共、先右之段達置候

宝暦十一年巳九月中御用留方写ス

6 宝暦十三年（一七六三）十二月 水戸領魚荷物領外指出順路に付達

『水戸下市御用留（八）』p.33

○一 都而浜々方江戸江為登候諸肴荷之義者順道往来致候儀勝手次第第二候、乍去商人勝手を以 御城下相廻候節ハ御町之外横道為致間敷候

一 西筋江出候諸肴荷之儀者大貫・磯・湊・平磯右四ヶ所ニ限り是迄之通下町江相懸ケ可申候、村松方北

浜々方出候分者順路往来勝手次第第二候

右之通り未十二月五日御役所様方被 仰付候

宝暦十三年未十二月五日孫太郎月番ニ候所、相勝レ不申候ニ付、三郎兵衛罷出御書付を以被仰付候、以上

7 文政五年（一八二二）十二月 水戸領魚拔荷取締に付 出判改所設置達

大内地山『茨城県水産誌 第一編』p.145-147

一 濱々他所出之魚拔荷多相聞、於御肴方ニ他所之間屋相糺、拔荷役錢取立ニ相成候得共、遠所へ引張、御領内之粗忽ヲ他ニ頭シ候姿ニ付、已来拔荷無之様濱々之元ニ於テ改方行届候様先達而相達候処、是迄濱々之出判、下町肴問屋へ計引替致モ不行届、出先ニ寄魚荷通行之不便利モ可有之候ニ付、他所出道筋夫々之最寄へ出判引替所右之通相定候条、以来心得違無之様濱々へモ屹ト可被申付候

一 磯濱・大貫堺改所

是ハ此度ヨリ御肴方荷御改役為相詰、濱々ヨリ南筋江戸等之出判引替ニ相成候

一 上下御町肴問屋

是迄之通三石崎並惣濱ヨリ笠間通西筋出荷物、出判引替ニ相成候

一 大山村

是ハ根濱・北濱ヨリ伊勢島・飯野通り西筋出荷、出判引替ニ相成候

菅谷村

是ハ北濱より赤塚・加倉井通西筋へ出荷物、出判引替ニ相成候

部垂村

是ハ北濱ヨリ烏山・宇都宮出荷物、出判引替ニ相成候

大田村

是ハ北濱ヨリ小倉・岩崎通ニテ西筋へ出荷物、出判引替ニ相成候

折橋村

是ハ川尻ヨリ白川、白坂出荷物、出判引替ニ相成候

馬頭村

是ハ根濱・北濱共直ニ西筋へ出荷物、出判引替ニ相成候

大子村

是ハ川尻ヨリ黒羽根通筋へ出荷物、出判引替ニ相成候

大内村

是ハ磯濱積出並湊村内小川ヨリ積候分

海老沢村

是ハ根濱ヨリ直積立荷物継之分

野田村

是ハ河岸ノ並細谷積立候分

右三ヶ村^{*}是迄船継問屋致候モノ出判引替ニ相成候

(中略)

一 荷口糺方之儀ニ付御着方ヨリ掛合等モ有之候ハ、申合、改方摸通宜敷様濱々廿分一改役へモ可被相達候

一 かつき魚荷之分、先年ヨリ御定之役銭有之所、近頃猥ニ相成候由ニ付、以後御定之通荷口銭可相納旨可被達候

右之通宜被取扱事

吉村伝衛門

一 濱々ヨリ他所出之魚荷、最寄道筋荷於テ出判引替場所相定候処、大貫筋へ掛り江戸出之分候ニテ多分ニ相聞候得共、改方不行届ニ付、此度磯濱、大貫境へ出判引替場相立、荷口改役為相詰候条御着方へ申合宜被取扱事

〈註〉

* 磯濱・大貫・磯浜村は鹿島郡(現大洗町)。大貫村は鹿島郡(現大洗町)、磯浜村の南。

* 三石崎・茨城郡上石崎・中石崎・下石崎村のこと。これら三村は水戸藩領で、南に澗沼をのぞむ。対岸の宮ヶ崎・網掛・田崎村は幕府領。

* 大山村・茨城郡(現城里町)。天保十三年に阿波山村と改称。

* 伊勢島・常陸大宮市。那珂川右岸。河岸がある。

* 飯野・下野国芳賀郡。那珂川右岸。上伊勢島の西となり。栃木県茂木町。那珂川に河岸問屋があり、水戸藩領湊・磯浜・鹿島浜、下総銚子、陸奥相馬・仙台・南部浜などと取引し、煙草・干鰯などを扱った。

* 菅谷村・那珂郡。現那珂市。棚倉海道の宿駅。

* 赤塚・赤塚村。水戸市。

* 加倉井・加倉井村。水戸市。赤塚の西方。

* 部垂村・那珂郡。現常陸大宮市。水府志料に「太田辺より笠間筋への道筋なり；保内領より水戸城下への往還筋なり」とある。天保十四年大宮村に改称。

* 鳥山…鳥山藩領。那珂川右岸。現栃木県那須烏山市。
* 宇都宮…宇都宮藩十一万五千石の城下町。日光道中・奥州道中の分岐する交通の要地。

* 太田村…久慈郡。文化二年の戸数六二六戸の在郷町で、棚倉海道の宿駅。

* 小倉…小倉村。久慈川左岸。那珂郡。現常陸大宮市。

* 岩崎…岩崎村。那珂郡。現常陸大宮市。久慈川右岸。小倉村の北方。

* 折橋村…久慈郡、現常陸太田市。棚倉海道の宿駅。また折橋からは多賀郡大能村をへて岩城海道宿駅の安良川へ出る道（現国道四六一号）が交叉する。

* 白川…白川・白河郡。現在の福島県西白河郡および白河市。白河藩領。

* 白坂…白坂村。白河の南方。現白河市。

* 馬頭村…下野国那須郡。水戸藩領。現栃木県那珂川町。

* 大子村…久慈郡。現大子町。

* 黒羽根…下野国那須郡黒羽。黒羽藩領。那珂川最上流の黒羽河岸がある。現大田原市黒羽向町。黒羽藩一万八千石の城下町。

黒羽河岸は当河岸からは下流の鳥山、川井（現芳賀郡茂木町）、野田・長倉（現茨城県東茨城郡御前山村）・水戸に米穀・酒・煙草・柏皮・楮・木羽・木材・硫黄などを送り、移入貨物は干魚などの海産物であった。荷は、野田・長倉で中継されたものが多く、川井までは、黒羽藩領下の庄との関係もあって、月に四、五度運送された。天保頃の塔ヶ崎河岸（現同県鹿島郡鉾田町）までの荷送状にある宿々問屋中の名には前出のほか矢吹（現福島県西白河郡矢吹町）・小田川（現同県東白川郡矢祭町）、白川・白坂（現同県白河市）、寄居（現埼玉県大里郡寄居町）、芦野・寺子（現那須町）、野上（現鳥山町）が書上げられる。

* 大内村…那珂郡。現那珂市。那珂川左岸。北に下江戸村。水戸より下江戸に通ずる道が台地の裾を通る。河岸がある。下江戸と那珂川対岸の上泉村、その北にある下坪村にも河岸がある。

* 湊村内小川…ひたちなか市。涸沼川が那珂川に合流する那珂川左岸にある。

* 海老沢村…涸沼の南西岸。鹿島郡（現茨城町）。水戸藩領。涸沼水運の荷受河岸があり、「野州、奥州より江戸江運送の諸荷物、東海は那珂湊より涸沼に入り、西は那珂川を下りて同所に入る、此所より下吉影迄陸地二里を駄送し、小舟にて小流をはしけ、北浦に出て、鹿島浦より利根川に入て江戸に赴く」（水府志料）。

* 野田村…茨城郡。現常陸大宮市。那珂川左岸。河岸がある。下野国との境。

* 細谷…細谷村。水戸城の東方（水戸市城東・若宮町）にある。那珂川右岸。承応―明暦（一六五二―一五八）の頃から対岸枝川村へ渡す新舟渡が開かれた。奥州会津・白河や下野からの諸物産はここで荷受けされ、海老沢村（現東茨城郡茨城町）・湊村（現那珂湊市）へ運送された。また水戸城下への舟行が禁じられていたため、ここに川舟番所が置かれた。

* 右三ヶ村…大内・海老沢・野田村。

8 文政八年（一八二五） 多賀郡松岡領天津浜魚荷口

銭大子村にて取立一件

『茨城県史料 近世社会経済編IV』p.204

同八四年八月

以書付致啓上候、秋冷相催候所弥御安全被成御勤仕珍重奉存候、然は別高領知大津濱より諸肴荷物野州辺江相送候に付、其時々居浜荷口改人方に而駄数相改、證拠書付

印形ニ而相渡遣候義 御領中濱々一統御承知之通ニ御座候処、右出荷之分大子村問屋弥四郎方ニ而再改之上、壹駄ニ付荷口錢百四拾八文ツ、取納之由ニ付、居浜ニ而荷口相納、出判持參致候旨相断候得共、右ハ其御役所より被仰付候而取立候得ハ、居濱之出判有之候而も荷口不取立候而ハ不相濟由、尤別高より其御役所へ御届申候上ニ而、大子之荷口御免之御達無之候而ハ取扱かね候由弥四郎挨拶候振ニ御坐候、扱又濱々一統御領内売之分ハ前々より出判不指出候処 水戸・太田其外市場等江指出候節、下直ニ而難売砌ハ無扨他領へ付送り候処、其節ハ其所之問屋へ申合、荷役改請候義是亦御承知之通ニ有之、且又荷数之内ニハ不心得ニ而、居浜出判不申請、他領へ罷出候ものも可有之候、右等之類ハ何分弥四郎方ニ而改之上荷口取納候義尤ニ候得共、居濱出判持參之ものハ一ト通相改候上、若出判引替相通候義ハ格別ニ候半、将亦別高最寄川尻浜をも為間合候所、居浜出判ニ而先々改所有之場所ニ而ハ、出判引替相通り候迄ニ而荷口等相納候義ハ無之振ニ御座候、左候得ハ大津浜のミ件之通行違居り難洪之趣五十集共より願之趣無余義相聞申旨、御濱々川尻等同様出判持參之分ハ、荷役不取納候様弥四郎方へ御達被下度、右旁可得御意如此御坐候、以上

八月十二日

別高郡方

御肴方

手代共

御手代様中

尚々大津濱之義ハ兼而御承知も被下候通、先規より上下之魚ニ不拘一統壹駄四拾八文ツ、之荷口ニ相濟居候間、若御領内売之分出先より他領へ引通候類も有之節

ハ、四拾八文ツ、荷口取納様是亦御達可被下候、以上

御書付致拜見候、秋冷相増候得共弥御安全被成御勤仕珍重奉存候、然ハ別高御領知大津浜より諸肴荷物野州辺へ駄送り荷物之分、其時々居濱荷口役人駄数改之上、証拋印形書付相渡候義 御領内濱々一統之通御坐候所、右出荷物分大子村問屋弥四郎方ニ而再改之上、壹駄ニ付荷口錢百四拾八文宛取納候由ニ付、右ハ居浜ニ而荷口相納出判致持參候旨相断候得とも、役所より申付置居濱出判有無ニ不拘取立候旨被仰聞致承知候、大子太田村両所之義ハ先年より取扱、御郡万ニ而問屋又ハ荷口改人申付置、被仰聞候通荷口錢取納候敷之様及承候得とも、役所ニ而ハ相拘不申候間、前々より之訳合ハ不相弁事ニ御坐候、勿論荷口改方仕法ニ付濱々一統出荷物改振ハ、役所持ニ而壹駄切改之上、出判持參之分役所印紙引替大子村弥四郎江も申付置為改、無出判等之分は夫々ニ取立収納いたし候様申付置、全荷口錢取立候分扱所御郡方持前ニ御坐候間、弥四郎江は被仰聞損相達かね候事ニ御坐候、右御答旁得御意度如此御坐候、以上

九月廿七日

御肴方

御用

手代共

別高御郡方

御手代様中

尚々大津濱之義ハ、先規より上下之魚不拘一統ニ壹駄四拾八文宛之御定之趣致承知候、先規より被仰聞通ニ御坐候哉、得ト不相心得事ニ御坐候、於役所扱方は濱方一円ニ生荷壹駄ニ付上着三百文、下魚百四拾八文宛

先年掟ニ御坐候、御領内ニテ売捌殘荷造他所出之分、所問屋改之上右上下之割、尚洩魚之分見出候節も右御定を以役所取納ニ相成申候、御答早速可得御意候所、折節繁多延日仕候、右荷口改方之義ニ付而ハ御手広之義ニ候得は、御糺振等次第も御坐候ハ、何分可被仰聞候、此方よりも御掛合申義も可有御坐候、御互ニ御申合仕候様致度奉存候、御答迄早々得御意候、以上

同年十月大子江懸合

以書付致啓上候、追日寒冷御座候処弥御堅勝被成御勤仕珍重奉存候、然は別高領知大津浜より諸荷物野州辺江相送候ニ付、其時々居浜荷口改人方ニ而駄數御改證拋書付印形ニ而相渡遣候所 御領中浜々一統前々より為取扱候処、右出荷之分御扱下大子村問屋弥四郎方ニ而再改之上老駄ニ付總四拾八文ツ、取納、尚亦近頃ハ老駄百四拾八文ツ、取納候由ニ付、居浜ニ而荷口相納出判持参いたし候旨相断候へ共、右は御肴方より被仰付候而取立候得ハ、居浜之出判「 荷口錢不取立候而ハ不相濟候、尤別高より御肴方へ付届之上ニ而大子之荷口御免之御達無之候而ハ取扱兼候由弥四郎挨拶之振ニ御座候処、濱々一統御領内売之分は前々より出判不指出荷口御免ニ候得共、水戸太田其外市場等江指出候節下直ニ而難売捌、無抛他領江附送り候節ハ其所之問屋へ申合荷口改請候義御存知之通ニ有之、且荷數之内ニは不心得ニ而居浜出判不申請「 罷出候ものも可有之候、右等之類は何分弥四郎方ニ而改之上荷口取納候義尤ニ候得共、居浜出判持参之ものは一ト通改候上、若し出判引替相通候義ハ格別ニ候半、將又別高最寄川尻浜をも為問合候処、居

浜出判ニ而先々改所有之場所ニ而ハ出判引替相通り候迄ニ而荷口等相納候義無之ふりニ御座候、左候得ハ大津浜而已件之通行違居難渋之趣五十集共より願出無余義相聞申候間、以後ハ川尻等同様出判持参之義は荷役不取納候様弥四郎方へ御達有之様致度旨、委細前書之振を以御肴方へ懸合申候処、太田・大子両所之儀は先年より所御扱御郡方ニ而問屋又は荷口改人御申付ニ而荷口錢取納候駄之振ニ及承候へハ、御肴方ニ而ハ相拘り不申候間、前々より之訳合ハ不相弁事ニ有之由、勿論荷口改方御仕法ニ付、濱々一統出荷物改振ハ御肴方持ニ而老駄切改之出判持参之分は右役所印紙ニ引替候様大子村弥四郎江も申付置為改、無出判等之分は夫々ニ取足シ致取納候様申付置候由、全ク之荷口錢取立候分は所御郡方持前ニ候間、御肴方より弥四郎へハ相達兼候御返書申来候事ニ御坐候、仍而ハ右之境御役所御取扱を以相調候様致度此段及御内談候間、何分前書之趣を以御了簡振被仰下度奉存候、右等可得御意如此御座候、以上

十月廿一日

江橋吉衛門

高瀬半兵衛様

尚々大津濱之義ハ他領被孕居候村方ニ付、先規より上下之魚ニ不拘老駄荷口四拾八文ツ、之御定ニ相成居候ニ付、御領内ニ而売捌兼他領江引通候類も有之、只々右之振ニ而取納ニ致度旨是又御肴方へ懸合申候処、右之境ハ得ト不相心得事ニ有之由、且右役所扱方ハ濱方一円ニ上看三百文、下看百四拾八文ツ、之掟ニ有之候へハ、出先より他所出分又は洩荷之分見出候節ハ右定

を以御着方取納ニ相成候旨是又挨拶ニ御坐候処、大津
浜之義ハ前書之通御領内一統と申内他領へ被孕居候故
を以四拾八文ツ御掟ニ相成居候事ニ候へハ、是等之処
も御承知ニ而可然御取扱被下度旁御無心得御意候、以
上

右之通大子御郡方外元へ高瀬半兵衛江江橋吉衛門よ
り及懸合候

文政八酉十二月

以書付致啓上候、中別而嚴寒ニ御座候処愈御堅勝被成御
勤仕珍重御事ニ奉存候、然は御領知大津浜より諸着荷物
扱下野州辺より相送り候節、其時々居浜より御改之上證
扱書付印形付ニ而 御領中浜々一統之御改御坐候処、右
荷物之分大子村問屋弥四郎方ニ而再改之上一駄ニ付鐙四
拾八文ツ、取納、尚又近頃は一駄ニ付百四拾八文ツ、取
納候由、居浜ニ而も荷口御取納之上又々於大子村荷口取
候而は二重ニ相成候間、其御許ニ而御取納無之、五十集
とも不心得ニ而 御領内売と申立、他所売ニ相成候分は
格別、証扱書付持参之分は荷口取不申候様被成度旨委細
御懸合之趣致承知候、村方とも相糺尚又及判談候処、先
年之振合は問屋も相替り候得は耽と相分りかね候得共、
御陣屋已来川尻濱等江居濱證扱書付持参之分は駄数改候
迄ニ而相通し、尤 御領内捌之積りニ而證扱書付持参無
之分は老駄百四拾八文之割ニ而取納置候趣御坐候間、大
津濱之義も以来は川尻濱同様之取扱ニ可致旨問屋へも相
達候間、他所出候分は其時々證扱書付致持参候様御達御
坐候様いたし度御答旁如此御坐候、以上

十二月六日

高瀬半兵衛

江橋吉衛門様

尚々大津濱之義は他領江被孕居候村方ニ付、先規より
上下之魚ニ不拘老駄荷口四拾八文ツ、ニ御定ニ相成居
候ニ付、他所出之分又ハ洩荷之分大津之義ハ四拾八文
宛之御掟ニ相成候事ニ候得は、是等之処も承知之上取
扱可申旨致承知候所 御領内一統之義ニ御坐候得は大
津濱ニ限り件之通りニも取扱かね候旨及判談候間、右
様御承知可被下候、以上

(朱書)

「大子村荷口錢之儀ニ付当村五十集兵衛門荷物指出大子
村問屋源五衛門方ニ能々承届候所、当春以来大津村諸着
荷口錢請取不申様庄屋元より申付候間左様御心得可被成
と申義ニ御坐候、御苦難ニハ相成候得共永久村方御救五
十集共ハ不及申上、我々共迄難有仕合之旨大津村荷口改
役儀幸七より申出候事、戊四月廿一日申出ル」

同年十二月申来ル

以書付致啓上候、嚴寒ニ御座候処弥御安全被成御勤仕珍
重奉存候、然は 御領内濱々より野州并江戸出駄送り之
分老駄切ニ居濱荷口改人より出判老駄ツ、相渡指出候義
一統之義ニ候所、別高御領知大津浜等より指出候荷物老
枚之出判江何百箇と束相認駄数多分指出候振ニ相聞候、
其内途中石名坂等ニハ才料江馴合指荷致候由相聞候間、
右濱方より之通荷箇数出判引合候様可為致候得共、通荷
滞ニも相成候半、仍而は濱方一統通指出候荷物老駄江老
枚ツ、出判改人より指出候様御達御坐候様致度奉存候、
途中隙取は売先ニも相拘荷主旨支候筋も可有御坐間、旁
以此段及御懸合候、否御報ニ被仰下様いたし度如此御坐

候、以上

十二月廿四日

御肴方手代共

御用
別高御郡方

御手代様中

尚々本文大津濱出判之面大躰箇数日付ハ何レも書入候様ニ相見申候、才料之者途中ニ而指荷分書入直し等手入もいたし候哉紛敷候間、以来右等之義有之間は指留相糾候間、其旨御達置出判引替方相運候様奉存候、此後以来御申合指荷等無之様致度奉存候、否御報可被仰聞候、以上

右之通表方御肴方より申来候ニ付大津村荷口掛り俵幸七江委細申達候事

9 寛永四年(一六二七) 水戸領産諸魚売買に付達

茨城県立歴史館史料部編『松蘿文庫所収寛永文書』p.370 「寛永文書〔10〕」(茨城県立図書館)

デジタルライブラリー「松蘿文庫」

萬御法度書留に

一 諸肴之儀水戸町あき人之外はまにてうりかい一切仕ましく事

一 諸肴之儀水戸町あ

一 他所より肴かひに参候もの、宿仕まし□事

一 海のうゑにてよろつさかなうりかひ、かたく令停止候、若れうし共海のうへよりすくに他領へ舟を付、さかなうり候ハ、可為曲事

右之条々於相背者急度可被仰付者也

寛永四年

卯八月日於水戸、みなと・宮田・ひらいそ・大ぬき

「」

参考史料

1 宝永六年(一七〇九)三月 魚荷物荷口銭徴収に付

肴方達 『茨城県水産誌 第一編』p.153

覚

一 上 肴 一駄ニ付 鏝三百文

一 同かつぎ 一人ニ付 鏝百文

一 下 肴 一駄ニ付 鏝百四拾文

一 同かつぎ 一人ニ付 鏝四拾八文

一 肴荷物他所へ指出候ハ、右御定之通荷口銭取納可相渡事

一 肴町ハ不及申処之濱々ヨリ出札無之肴荷指出候ハ、

役人屹ト相改、最寄之庄屋方へ預置、早速可申出事

一 所々かつぎ中売之者共、濱々ニテ肴相納候ハ、直ニ

他所へ指出不申、上下肴町ニ出シ御用肴指上相残り候

分荷口銭相納指出可申事

附 肴町ヨリ外々ニテ為荷造間敷事

一 御連枝様方御陣屋御用ニテ肴買ニ参り候ハ、注文見届荷口銭取納申間敷候、御用達肴屋共申出候共慥成証拠無之分荷口銭取納可申事

一 鰯・蛤荷口銭取申間敷事

一 諸濱入津之塩物・干物濱々役人証拠無之分ハ御領内干物同様ニ荷口銭取納可申事

附 小名濱ヨリ差出候生肴、小名濱商人直出シ之分ハ小名問屋判形之書付取出札相渡、荷口銭取納申間敷候、尤於肴町改商売候分並小名商人直出シ仕候共荷拵仕直候ハ、荷口銭取納可申事

一 荷口銭取集御用相場ヲ以金子ニ仕、役人並問屋両判ニテ日々可相納事

右之条々□□可相納候、若違背之者於有之ハ早速可申モノ也

宝永六年丑三月

御着方

2 文化六年（一八〇九）三月 那珂郡湊村魚荷城下問

屋相懸けに付馬持一札

『茨城県水産誌 第一編』p.106
『茨城県史料 近世社会経済編Ⅳ』p.261

指上申一札之事

一 野州筋へ附出候生五十集荷物、御城下問屋へ不相懸通り申間敷旨被 仰付奉畏候、当村之義ハ是迄逆モ馬持ノ我々共無洩問屋へ相懸リ申候、他村馬ニ而当所荷物附候もの心得違、此度指上候我々共恐入候間、野州筋へ附出候荷物之儀は吟味仕、御城下問屋江相懸申候、当村荷物附不相懸通り候もの、御座候ハ、村馬持之我々共何分ニも被仰付候、依而如件

湊村馬持

藤介

治平

清八

利八

清兵衛

前書当村鮮五十集荷物野州筋へ附出し候分、御城下問屋へ不相懸通り申間敷段被仰付、馬持共印形取揃さし上申候、是迄逆モ村馬ニ而附出候義ハ無相違相懸申候得共、他村馬ニ而附出候分洩荷難計、万一相洩候義御座候而ハ我々共ニも奉恐入候間、野州筋附出し荷物之義は此度印形指上申候馬持共へ吟味仕候様申付候、此上之儀当所出荷物御城下問屋へ無相違為相懸申候、依而御請書指上申候、以上

文化六年巳三月

湊村廿分一役

四人

御郡奉行所様

庄屋

舟庄屋

3 文化十二年（一八二五）十月 荷作りサンマに荷口

銭

『茨城県水産誌 第一編』p.124

近頃さんま漁事多候所、鰯同様荷心得荷口銭不指候由之所、以後荷作イタシ他所へ指出候分ハ下肴ニ組、荷口銭致取納候様相心得可被申候、此配府見届ケ順達可被致候、以上

文化十二年亥十月廿四日

粉川孝五郎

大貫 磯浜 湊 平磯 前濱迄
右村々

4 文政四年（一八二二）七月 水戸領産生荷の抜荷改

め方に付下問 『茨城県水産誌 第一編』 p.136

文政四巳七月 吉村伝衛門、梶清次衛門へ

一 濱々漁獵之廿分一改振り近頃相弛、並他所出之生荷
抜荷多有之歟ニ相聞候ニ付、於御着方他領之間屋トモ
荷受帳ヲ改、抜荷之分追々御收納有之候得共、御領内
之粗忽ヲ他へ顕候姿ニ付、以来抜荷無之様濱々之本ニ
テ改方、左之通為取扱候テハ故障之義可有之哉、両扱
申合否早々可被申出候

一 濱々廿分一改振、村々ニヨリ違ヒ有之カニ候へ共、
五十集共増言合候事無之、舟主トモ計、於表向之相場
相立、改濟候得バ宅ニテ五十集共ヲ寄、相場立直改売
買、又ハ歸舟之獵魚無残不差出ニ舟主へ引揚候類モ有
之カニ相聞候処已来獵魚之分ハ一図於改場所五十集共
へ売買イタシ、仮令舟主共ヨリ直ニ荷出候分モ時ニ相
場ヲ以改ヲ請候様可致事

一 荷口銭取立之儀ハ荷主共宅々ニテ荷造駄数申出ニ
任、出判相渡候故、自然洩荷多相成可申候得ハ、以来
廿分一改相濟候ハバ、於其場買請候者之荷嵩銘々之分
何駄ト見切、直ニ出判相渡可申事

一 抜荷之分於道筋見答候得バ、入津物ト申上リ紛敷相
聞候間、以来入津物之分ハ入津物ノ出判相渡、尤役銭
之儀ハ是迄之通御免ニテ可然事
但出判無之分ハ抜荷同様役銭取立可申候

一 御城下売荷口銭ハ無之候得共、他所出ニモ紛敷候
間、馬荷之分ハ他所出同様出判相渡、御城下問屋共ヨ
リ荷受書付ヲ為取、以前之出判為取消可申事
但御城下ニテ売捌残、他所へ付出候時ハ着町問屋共ヨ
リ出判申受候様可致候

一 是迄村方ヨリ相渡候出判、着町於問屋書替相請取可
申候定ニ候得共、近頃猥ニ相成、問屋ニ不掛分モ有之
歟ニ候処、道筋ニヨリ指支モ可有之候間、以来問屋書
替之儀ハ相止、於途中其筋之者改之節ハ濱々之出判ヲ
以抜荷ニ無之致證據ニ可申事
右之通已来屹ト相改申候、廿分一改役共計へ任置候テハ
届合申間敷候間、右役手代共之内へ掛リ相立、大漁之節
ハ勿論平日共時々見廻候様可致事
但扱ニヨリ手代不足ニテ届兼候事モ有之候ハバ過人等
之義可然了簡被致候

5 文政四年（一八二二）十月 水戸領産生荷の抜荷改

め方に付上申書

『茨城県水産誌 第一編』 p.137

一 濱々漁獵之廿分一改振近頃相弛、他所出之生荷抜荷
多有之候ニ付、於御着方他領之間屋共荷受帳ヲ改、抜
荷之分マデモ御收納相成候得共、御領内之粗忽他へ顕

シ候姿ニ付、以来抜荷無之様濱々ノ元へ改方御達ノ趣
モ御座候ニ付左ニ申上候

一 廿分改振村々ニヨリ違有之候得共、五十集共増言合
候事無之、船主共計出、表向之相場相立、改濟候得バ
宅ニテ五十集ヲ寄、相場立直致売買、又ハ婦舟之漁魚
無残不指出、内々船主へ引取候類モ有之カニ相聞候
間、以来漁漁之分ハ一圓於改場所五十集共へ売買イタ
シ、タトへ船主共ヨリ直ニ荷出致候分モ時ニ相場ヲ
以、改ヲ受候様可致旨、御達御座候処、濱田扱湊村之
儀ハ商人ヨリ船主共直商仕候故、其日之水揚相場テ相
立、改帳へ相記シ船主共へ漁物之品為引取候由ニ付、
何様御達之通、不直之程モ難計筋ニ候へ共、廿分一改
役モ立会居候事ニ候得バ左迄之未熟ハ有之間敷、此段
廿分一改役共之存意ニ不叶直段相立候類モ有之候ハ、
漁物廿ケ一丈ケ品ニテ取、外之者へ為売払候方可然ト
奉存候、尤石神扱濱々之儀モ船主抱切之水主ニ無之、
其日之漁魚着船直ニ役場へ差出、商人一同増言合直段
ヲ以相払、代鏝舟主・水主ニテ分取候故、舟主宅へ漁
物残候儀ハ勿論直安ニ相場相立候儀ハ無之由ニ御座候
得共、手広之儀ニ候得バ改濟候後、宅ニテ五十集共ヲ
寄相場立、直致売買、右ハ婦船之漁魚不残不指出、
内々船主へ引取候類モ御座候へバ不宜候間右様之義無
之、於改場所売買為致候様為取扱可申奉存候

一 荷口銭取立候儀ハ、荷主共宅々ニテ荷造駄数申出ニ
任セ出判相渡候処、自然洩荷多ク相成可申候得バ、以
来廿分一改相濟候ハバ、於其場買受候者之荷嵩銘々之
分何駄ト見切、直ニ出判相渡可申旨御達御座候処、廿

分一改之節ハ甚ダ混雜致候由、廿分一改濟候後宅々へ
引取、村内小売又ハ塩漬かつき売ニモ仕候ニ付、於改
場所ハ荷造之分相分リ兼候分モ御座候由相聞申候、仍
而取扱方之儀ハ是迄之通御据置ニ仕、改人共へ洩無之
様屹ト相達可ト奉存候、尤湊・平磯ニテハ以後荷出之
分荷主之勝手ニ馬不相雇、馬指相立、右之者ヨリ馬指
出候様ニモ改候ハ、日々ノ荷数相分、洩荷無之様可相
成與之旨、此節申出候間誠ニ為取扱候方可然哉ト奉存
候、以上

一 抜荷之分於道中筋見咎候得バ入津物ト申上リ紛敷相
聞候間、以来入津物之分ハ入津者之出判相渡、役錢之
儀ハ是迄通御免ニテ可然旨、且出判無之分ハ抜荷同様
役錢取立可申旨御達御座候処、会沢・河原子等ニテ暮
春杯折々ハ御座候由之処、少分故是迄出判不指出趣ニ
候処、以来御達之通出判為指出可申奉存候、磯濱ニテ
ハ是迄出判指出候由、右ハ湊村嚴重之儀ニテ出判指出
可申定ニハ候得共、暮向杯ハ別而荷数多改人トモ廻リ
合兼甚指支、其上入津物之分出判合渡候節ハ商人共ヨ
リ筆墨紙代ヲモ是迄ハ不受取候故、旁以改役之者難洩
之趣、依而以来之儀ハ磯濱村見合ヲ以、商人共ヨリ一
駄ニ付鏝十文ツ、筆墨紙杯為差出、出判為相渡候様可
然奉存候、乍然出判無之分見咎之節ハ役錢取立不申其
時ニ於役所夫々咎申付候上、役錢之儀モ於役所取立候
様仕度奉存候

一 御城下売荷口銭ハナク候得共他所出ニ紛敷候間、馬
荷之分ハ他所出同様出判相渡、御城下問屋共ヨリ荷受
書付ヲ以為取、以前之出判為取消可申旨、且御城下ニ

テ売捌殘御座候節、肴町問屋方ニテ出判差出候儀ハ已後無之往元之出ニテ通用致度奉存候、尤片荷売殘之節片荷丈ケ之受取ヲ肴町問屋ヨリ指出候儀ハ往元之出判ニテ通用為致度奉存候

- 一 是迄村方ヨリ相渡候出判、肴町於問屋書替相請取可申定ニ候得共、近頃猥ニ相成問屋ニ不掛分モ有之歟ニ候処、道筋ニヨリ指支モ可有之候得バ以來問屋書替之儀ハ相止、於途中其筋之者改有之節ハ濱々之出判ヲ以、抜荷ニ無之致證拋可申旨御達御座候処、此儀ハ濱々御救ニモ相成候趣ニ而候間、御達之通仕度奉存候
- 一 右改方之儀廿分一改役共へ計任置候テハ届合申間敷候間、右役手代共之内へ掛リ相立、大漁之節ハ勿論平日共時々見廻リ候様、且又抜ニヨリ手代不足ニテ届兼候事有之候ハバ過人等之儀了簡之上可申上旨御達御座候処、廿分一改役共之儀モ随分致出精相勤候事ニ候得共、廣大ナル改物ニテ不行届儀モ可有御座哉、依而ハ御達之通手代共之内へ掛リヲモ可申付候得共、過人等之儀ハ此上ノ取締方ヲモ見届ノ上、モシ不行届儀モ御座候ハバ可申上候間、前件申上候通御扱ニモ相成候ハ、以後改方之儀廿分一改役共へ相達申度此段奉伺候

十月九日

吉村伝衛門

梶清次衛門

前申出候付札

廿分一改振村々ニヨリ違候申出、上へ御付札

- 一 湊村之儀ハ船主致直商候ニ付、不直之程モ難計候得共廿分一共安直段ト存候節ハ品ニテ引上、別ニ為売払

候様申出之通取扱、尚更猥魚之内隠々船主方へ引取候様之儀、屹ト心ヲ付可申旨改役共へ可被申付候

前文言之内石神扱濱々之上へ

- 一 石神扱濱々之儀申出之通ニテ次第無之候得共、尚此上心ヲ付候様可被致候

荷口錢荷主共宅ニテ荷造駄數申出候処へ付札

- 一 荷口錢取立候儀ハ廿分一改之節、致混雜候上ニ宅々へ引取小内売等之捌万有之、於改場ハ分リ兼候由無余儀相聞候ニ付、湊・平磯共以來馬指相立洩候無之様申出之通可被取扱候

但磯濱村ハ勿論石神扱濱々共尚更心ヲ付候様可被相達候

抜荷之分申出候所へ

- 一 入津物之分磯濱村見合ヲ以、商人共ヨリ筆墨紙代為指出、都而出判為相渡可申旨申出之通取扱、右出判然之分見咎役錢取立候儀ハ先年ヨリ御着方持持前之勤筋ニ付、是迄之通御据置ニ相成候間、心得違無之様村々へ可被相達候

御城下売荷口錢之上へ

- 一 御城下並部垂・大子・馬頭邊へ売捌候者馬荷之分ハ他所同様濱方ヨリ出判相渡、問屋共ヨリ荷受之書付ヲ取ル以前之出判ヲ為消候筈、此度御着方へモ相達候間、申出之通尚更洩無之様可被相達候

但荷受書付之儀ハ御着方ヨリ渡置候、印紙ヲ為用候筈ニ有之候

同御付札之内へ

- 一 他所出之積リニ而於濱方役錢相納候分ヲ御領ニテ問

屋無之場所へ売捌候節ハ、是マデ之通其所ニ庄屋ヨリ濱方之出判ハ裏書申受、以前之役銭為取戻可申候同断之内へ

一 御城下等ニ而売捌残有之節、問屋共ヨリ出判指出候儀相止、濱方之出判ニテ通行為致度旨申出候得共、御故障有之ニ付、御領内ニテ片荷売捌、残品他所出之節ハ片荷ノ荷受並出判共申受候様可被相達候村方ヨリ相渡候出判書替之上へ

一 濱方之出判等肴町問屋書替相止候得バ、濱々御救ニモ相成候由之処、於濱方荷口改之義、先ニ達之通りニモ相成兼候由ニ付、是迄之通御据置ニ相成候間問屋書替之儀モ是迄之通可心得候

廿分一改役共へ取扱任置候儀ニ付申上
一 手代共之内、掛リ相立廿分一改役共へモ達候儀都而申出之通可被取扱候

6 文政六年（一八二三）三月 磯浜・大貫境出判引替

所設置達 『茨城県水産誌 第一編』p.152

一 浜々他所出之魚荷物扱荷モ多ク、御外間ニモ相拘リ候ニ付他所出之道筋所々へ出判引番所御立被遊候趣、尚又大貫・磯濱境へは荷口改之者為相詰出判引替ニ相成候旨、舊冬御達モ御座候ニ付、其砌村々へモ相達申候処、大貫境へ引替所相立候而ハ磯浜・湊・平磯共道程近く候ニ付大方同時位ニ改所へ相掛リ混雜いたし隙取可申哉、左候テハ江戸出之分直段へモ相拘リ難渋仕候趣扱下濱々より追願出候、舊冬御達之趣御座候得

共、外荷ト違生荷之儀ハ片時ヲ争フ事ニ御座候間、尚更村々ヲモ相糺相伺候様仕度奉存候、仍而此段申上候
三月十四日

吉村伝衛門

一 他所出之魚荷、出判引替所御立ニ相成、大貫境へハ荷口改役為相詰候段相達候処、磯浜・湊・平磯共道程近くニ付大方同時位ニ改所へ相掛度混雜、隙取候テハ致難渋候由、近々願出候ニ付、尚更村へ相糺可伺出旨申出有之所、大貫筋通行之出判ニ限り引替無之候テハ御領中区々之扱ニ相成、御規定モ相崩候間、タトへ少々隙取有之候テモ不得止事に候処、出判引替候迄之事ニテ隙取候儀モ無之、尚更隙取無之様御肴方へモ相達置候条、舊冬達之通相心得候様濱々へ得ト可被申合候

一 磯濱等ヨリ江戸出シ分、是迄ハ荷主一人惣駄数ニテ出判指示候カニ候得共、馬一匹切銘々出判無之テハ改方モ紛敷候上、却テ隙取ニモ可相成哉ニ付、以来ハ外濱々同様馬士一人切ニ出判相渡候様可被申付候
右之通宜被取扱事

7 文政六年（一八二三）三月 水戸藩魚荷物出判取扱

法覚 『茨城県水産誌 第一編』p.154

文政六未三月
取扱振之覚
一 御領内濱々ヨリ他所へ指遣相成魚荷物、其濱方改出判送荷物並上魚下魚之境見届、再改之上出判引上御役

所之印紙相渡可申候

但於濱方ニ上魚荷口下魚之出判ニ候ハ、上魚御定之
役錢相立可申事

一 諸濱ヨリ指出候魚荷物、其村方ニテ相揃候ハ、浜方
之出判へ裏書イタシ印形相極指出可申事

但改所無之村方ニテモ相揃候ハ、其処之村役人之内
ヨリ証拠書付取、濱方役人へ指出候様濱々エモ相
違候事

一 他所ヨリ入津之塩物・干物御領内ニテ買取、直ニ他
所へ荷送候分ハ役錢御免候得共、濱方出判送り見届印
紙ニ引替御役所へ指出可申事

但入津塩物タリ共於荷揚、右品売捌残品其荷造候節
ハ役所へ相納可申事

一 抜荷役錢収納之分ハ役所へ相納可申事
但荷口錢取集候分ハ所相場ヲ以金子ニテ成共勝手ニ
相納可申事

一 生荷之儀ハ片時ヲ争候間、於役所隙取等有之候へハ
売先直段ニモ拘リ及難儀候付、依而隙取無之様出判引
替可被取扱事

出判認振之事

上 肴

何村荷主

下 肴

何箇印 ○改人之印 誰

右荷物改指遣候メ

未何月何日

印 役所

一 御領内尅通出判認振之儀ハ濱方ヨリ持参之出判致裏
書、印形相極指出可申候

元帳工割印

表書之荷物当所ニテ売払申候

何月何日

何村役人 誰 印

一 通り出判裏書致差出候分、横折元帳へ何村誰ト申義
留置、改書日々差出可申事

但印形付ニテ差出可申候
一 荷口錢抜荷並被取候分同断留置、月々相納可申事
但右同断

一 印紙月々相渡置候分、濱方引替候出判印紙数突合致
候事

但突合不申分ハ改人失念ニ而役錢辨之事

一 濱方之出判月切ニ詛置可申事

一 上下組入候荷物ハ一箇之役錢分掛出シ取納可申事

一 御印紙何枚相請取申候濱方出判引替之分並諸帳共指
出、追而仕訳可仕候、以上

何月何日

何村役人 誰 印

一 鰯・蛤・蜆ハ其旨出判へ相記、指出可申事一 抜荷
見当候ハ、上下魚見届品位御定通割ヲ以可致収納事

但一駄付拾錢ヅ、御合力改人へ被下事

右濱方ヨリ荷出帳改所帳へ突合等ニテ抜荷へ荷入候分、
上下品不見届候共御定之上品割之通一駄付總三百文ヅ、
収納可申事

役錢御免之分

一 鰯・蛤・蜆

右之通以来取計可申事

文政六未三月

8 文政六年（一八一三）三月 水戸藩魚荷口改に付達

『茨城県史料 近世社会経済編IV』p.263

濱々荷口改方之儀ニ付相達候義有之候条、明後廿七日四
ツ時濱方役人御役所江可被指出候、此配符見届順達留よ
り可被返候、以上

三月廿五日

笹島雄三郎

大久保千蔵

大貫 磯浜

湊 平磯

前浜

右村々庄屋

出役与惣兵衛罷出候所、大久保千蔵様より御看方配符之
通り行可申由御口達ニ而被仰付候

其濱々漁魚并入津品共売買他所出之分ハ於其所ニ改ヲ
請、荷物出判所持之上通行為致候所、此度御達之上左之
ケ所々江濱方出判指出荷物改ヲ請、御役所證札他所荷出
可被致候

御普請出来次第引替之儀追而可相達候 大貫村御役所

上看町御用御看問屋 鬼沢小左衛門

下看町江不懸、上町駄送之分

下看町 鬼沢六左衛門

菅谷村荷継改所

勘兵衛

惣 蔵

甚衛門

大山村荷口改人

佐市兵衛

太田村東上同

藤九郎

部垂村問屋改所

小左衛門

折橋村荷継改所

伊衛門

大子村荷口改人

弥四郎

馬頭村同

源之助

大内川岸改人

長次郎

野田かし同

兵三郎

一 鰯蛤蛭役錢御免之分たり共濱方出判右同様引替之事

一 他所入津塩物・干物右同様之事

一 御領内売たり共濱方出判指出可申候、尤品売捌候

ハ、改所又は其所村役人之内江申出、売払候段濱方出

判江裏書證拠印取、其濱方役人江指出候ハ、役錢相返

シ可申候

一 生荷物之義は売先片時ヲ争候間、札引替隙取不申候

様改ケ所々江申達置候所、於其濱方ニも紛敷荷造有之

候而ハ自然と改手間取、荷滞ニも相成可申哉、右等之

義無之様荷主共江可被相達候

一 其濱方最寄順道之故を以通り来り候事ニハ候得共、

不便利等ニ而道筋并荷継所等替候ハ、其濱方遅々之通

行不相成様申合、其段早速可被申出候、尤改所逃レ横

道通行荷物吟味之もの指置候事

但替候道筋并荷継所名前委細可被申出候

一 四月朔日より札引替之儀改ケ所々江相達置候間、右

心得を以指出可申候

右之通相触候条、荷主は勿論之儀馬口附等江も精々可被

相達候

三月廿五日

石川忠衛門
清水新十郎

大貫未 磯浜申 湊西

中刻 上刻 上刻

平磯 前浜 三石崎

右村々船庄屋中

尚々此配符見届、刻付順達留りより可被相返候

一 本文改之儀ニ付改ケ所々等江相渡候間、其濱々出判指出候もの印鏡形拾八枚ツ、早速可被指出候、以上

其濱々より他所江指出候魚荷物政所之義、此間相達候所右之外左之ケ所々ニ而札引替之条、其旨又々荷主共江可被相達候

小幡村荷継改所 太兵衛

足黒村同 五三郎

右之通可被相心得候、以上

石川忠衛門

清水新十郎

大貫 磯浜

湊 平磯 前浜

右村々庄屋中

尚々此配賦見届、刻付を以順達留りより可被返候、以上

9 文政六（一八二三）年七月 魚荷出判引替所増設達

『茨城県水産誌 第一編』p.157

文政六年末七月

一 濱々ヨリ他所出之魚出判引替場、先達而相達候処、

右之外小田・北条等へ根濱指出候生荷之分ハ紅葉扱下

秋葉・小幡両村へ出判引替場申付候間、尚更濱方へモ

右之趣可被相達候事

同

一 根濱ヨリ魚荷他所出之分、海老沢村改問屋候モノへ出判引替申付候様相達候処、小田・北条筋其外大浦等へ指出候生荷之儀ハ海老沢村付越、秋葉・小幡両村並他領片倉村ニテ継替候付、小幡・秋葉両村ニテ是迄荷受イタシ候者へ出判引替場申付候テ別紙名所等申出之通ニテ可然之処、塩物之類舟積之荷物モ有之由ニ付海老沢問屋へも引替場可申付事

但他領片倉村ニテ継替候生荷之分ハ磯濱境御肴方役所ニテ出判引替為取扱候筈ニ候

制作 日立市の歴史点描

二〇二四年五月二五日

補遺 二〇二四年六月三日